

平成27年度「いもち病」「ばか苗病」防除のチェックポイント

- ・圃場の見回り、ブラスタムの活用により、葉いもちの発生に注意して、いもち病防除を確実に行いましょう。
- ・生育が早まっています。「ばか苗病」撲滅に向けて、早めの抜き取り等のご協力を、お願いします。

いもち病の耕種的防除

●本田（置き苗の早急な処分）

補植用の置き苗は伝染源となるため、堆肥化するなど早急に処分する！

【写真①】



●畦畔（ゴミ処分）

畦畔のゴミも伝染源となるため、早急に処分する！

【写真②】



いもち病早期発見のチェックポイント

●水田内見回り時期

ブラスタム（北海道病害虫防除所）
（<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>）
を活用し効率的に

- 感染好適日の約1週間後に見回り
- 幼穂形成期5日後頃は見回り強化
- 病斑を発見したら【写真③④】、直ちに茎葉散布

●MBI-D剤（商品名：デラウス・ウィン・アチーブおよびこれらを含む混合剤）の効果が心配される圃場では、使用しない。

●Qol剤は一般圃場では1回以内とし、採種圃場では使用しない。

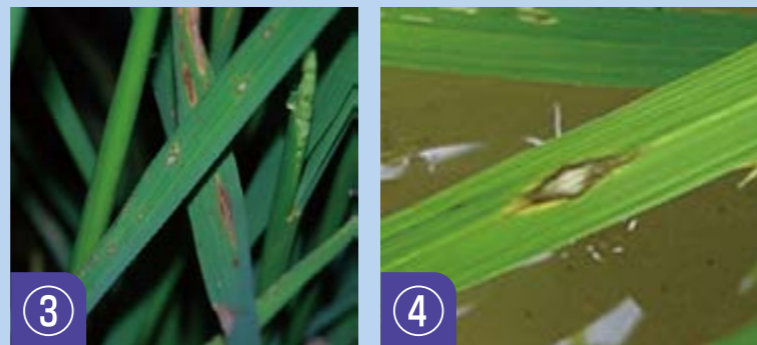
●見回り場所・方法

■いもち病が発生しやすい場所

- ・ 昨年の発生場所
- ・ 葉色が濃い場所
- ・ 風通しが悪い場所

■株をかき分け下葉を重点的に観察する

【写真③④】



葉いもち病斑

「ばか苗病」の本田における対応策

●本田におけるばか苗病罹病株の病徴

- ・ 潜伏感染苗は移植後に本田で発病し、徒長症状を示す 【写真⑤⑥⑦】
- ・ 罹病株は出穂前に枯死し、枯死株には白色～淡紅色の粉状のカビが一面に発生する。 【写真⑧】
- ・ この孢子が百メートル以上飛散して、開花期の粉に感染し、翌年の伝染源となる。（種子伝染）

●罹病株の抜き取り・廃棄処理等

- ・ 枯死する前に株ごと根の部分で刈り取り、出穂前に完了する。
（写真⑧では遅く、写真⑤⑥の時期までに完了する。）
- ・ 疑わしい徒長株・黄変株も抜き取る（写真⑦）。
- ・ 抜き取った株は、土に埋める等、適切に処分する。
- ・ 本病は発病後に効果のある防除薬剤はない。毎年の種子更新と的確な種子消毒が本病防除の基本である。



本田での発病 H25.6.27



本田での発病 H25.7.23



疑似症状株 H25.7.17



枯死株についた孢子 H24.7.28